

- 巻頭言
- 基準協会の動き
- 論説 1 評価員を経験して
- 論説 2 2 回の評価員を経験して
- 論説 3 評価員を経験して
- 論説 4 評価員を経験して



巻頭言

一般財団法人大学・短期大学基準協会 副理事長
大学認証評価委員会 副委員長
(聖徳大学・聖徳大学短期大学部 理事長・学園長・学長)

川 並 弘 純

大学・短期大学基準協会 会員の皆様こんにちは。

このたび、原田理事長、麻生副理事長とともに副理事長を拝命いたしました、聖徳大学・聖徳大学短期大学部 理事長・学園長・学長の川並弘純と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、認証評価は平成 16 年に法制化され、今年で第 3 評価期間に入って 6 年目の認証評価作業が行われています。

初めは、短期大学評価基準について 10 領域 32 項目でスタートしましたが、第 2 評価期間を迎える平成 23 年度より現行の 4 基準 12 テーマでの評価基準に改正されています。また、令和 2 年度からは短期大学の認証評価のみならず大学の認証評価も行うようになっていきます。本協会の認証評価は、米国西海岸の Accrediting 団体である WASC (The Western Association of Schools and Colleges) ならびに 2 年制高等教育の認証評価機関である ACCJC (The Accrediting Commission for Community and Junior Colleges)

の Accreditation Standards を範として評価基準を導入しています。ACCJC の本部を訪問し、Administrator からのヒアリングのみならず、評価が行われているコミュニティ・カレッジへの訪問調査や、現地の 2 年制大学関係者が Accreditation Liaison Officer (ALO: 認定評価作業連絡調整担当者) になるためのワークショップに実際に参加し、真摯に評価に取り組んでいる姿を見学しています。平成 22 年度の 4 基準への変更の際にも、ACCJC の理事の方々や実際に認証評価を受けた大学を訪問し、学生の学習成果を評価に導入することについての調査を行い、そのことを踏まえて 4 基準への改正を行ったところです。4 年制大学の認証評価への取り組みに関しても、WSCUC (The WASC Accrediting Commission for Senior Colleges) における大学の認証評価と ACCJC の 2 年制大学の認証評価の違い等について、現地でのヒアリングを行い、その結果として、本協会の大学認証評価においては、短期大学認証評価で培った基準を基本に評価を行うことと定められてい

ます。平成 25（2013）年 3 月 21 日には、カリフォルニア州ソノマの地で ACCJC との提携を結んだことは、本協会の認証評価の流れとして自然なことであったと思います。

本協会の認証評価の特徴は、学習成果の獲得に力点を置いたものであり、認証評価の義務化や三つの方針の導入、教学マネジメントの考え方など大学・短期大学を巡る法的環境や手法の変更があっても、その基本的な考え方は不変であり、学習成果を獲得するための PDCA サイクルがどのように構築され、どのように確認され、次のサイクルでは修正されているのかという流れを抑えていく動的な評価であります。正しく学習者本位の学びを中心とした評価と言えます。

単に法令に基づいて認証評価を受けたという事実を積み上げるだけではなく、認証評価を通して当該校が成長していくための糧となることが大切であり、そのようなもとで評価文化が根付いていくものであると考えます。

日本の高等教育が、真に国際的な競争力を持ったものであり続けるために常に向上していくことが求められます。そのために微力ではありますが、努力を続けさせていただきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



基準協会の動き

大学の認証評価

●令和4年度大学認証評価結果

令和4年度大学認証評価については、令和4年12月16日に評価校1大学へ機関別評価案を内示しました。内示に対する異議申立て及び意見申立てはありませんでした。令和4年1月26日及び2月16日に開催された大学認証評価委員会、2月17日開催の理事会において評価結果について審議し、了承しました。

3月10日開催の理事会において、機関別評価案を審議し、大学評価基準を満たしているとして、3月10日付けで1校を「適格」と認定し、3月13日に評価校へ評価結果を通知しました。3月24日に文部科学大臣へ大学認証評価結果を報告し、同日に報道機関に公表し、本協会のウェブサイトにも掲載しました。

(<https://www.jaca.or.jp>)

〈適格と認定した大学〉

聖徳大学

短期大学の認証評価

●令和4年度短期大学認証評価結果

令和4年度短期大学認証評価については、令和4年12月16日に評価校51短期大学へ機関別評価案を内示しました。内示に対する意見申立ては8校から22件あり、異議申立てはありませんでした。また、内示の段階で改善を求めた問題については評価校から改善報告書が提出され、令和4年1月26日、2月16日及び3月9日に開催された短期大学認証評価委員会において評価結果について審議し、了承しました。

2月17日開催の理事会で、内示において提出を求めた改善報告書等について審議し、これを承認しました。

3月10日開催の理事会において、機関別評価案を審議し、短期大学評価基準を満たしているとして、3月10日付けで51校を「適格」と認定し、3月13日に評価校へ評価結果を通知しました。3月24日に文部科学大臣へ短期大学認証評価結果を報告し、同日に報道機関に公表し、本協会のウェブサイトにも掲載しました。(https://www.jaca.or.jp)

〈適格と認定した短期大学〉(都道府県別・五十音順)

釧路短期大学	光塩学園女子短期大学
拓殖大学北海道短期大学	北星学園大学短期大学部
青森中央短期大学	弘前医療福祉大学短期大学部
仙台青葉学院短期大学	東北生活文化大学短期大学部
聖園学園短期大学	いわき短期大学
國學院大學栃木短期大学	秋草学園短期大学
埼玉東萌短期大学	武蔵野短期大学
山村学園短期大学	東京経営短期大学
有明教育芸術短期大学	帝京大学短期大学
日本歯科大学新潟短期大学	帝京学園短期大学
上田女子短期大学	佐久大学信州短期大学部
正眼短期大学	愛知工科大学自動車短期大学
愛知文教女子短期大学	名古屋短期大学
鈴鹿大学短期大学部	滋賀短期大学
滋賀文教短期大学	京都光華女子大学短期大学部
大阪国際大学短期大学部	大阪城南女子短期大学
大阪夕陽丘学園短期大学	四天王寺大学短期大学部
常磐会短期大学	産業技術短期大学
頌栄短期大学	園田学園女子大学短期大学部
武庫川女子大学短期大学部	就実短期大学
中国短期大学	下関短期大学
徳島工業短期大学	聖カタリナ大学短期大学部
九州大谷短期大学	西日本短期大学
東筑紫短期大学	福岡女子短期大学
九州龍谷短期大学	東九州短期大学
沖縄女子短期大学	

調査研究

●短期大学に関わる高等教育の調査研究

本協会では、会員短期大学の自己点検・評価活動や内部質保証に資するため、「短期大学卒業生調査」及び「短期大学生調査（Tandaiseichosa）」を実施しています。

令和5（2023）年度の「短期大学卒業生調査」の実施については、令和5年3月14日に会員短期大学に参加を募りました。参加校には6月下旬に調査の実施手引き等を送付し、8月末日まで調査を実施し、9月下旬には参加校別の調査結果を通知する予定です。

「短期大学生調査（Tandaiseichosa）」は、令和5年6月に会員短期大学に参加を募り、参加校には8月下旬に調査票等を送付し、12月上旬までに調査を実施する予定です。

事業計画・収支予算

●令和5年度事業計画及び収支予算が決定しました

3月10日に開催された第54回理事会において、令和5年度事業計画及び収支予算が審議され、承認されました。事業計画は5ページ、収支予算は6ページをご覧ください。

組織

●広報委員会の委員が決定しました

本協会の広報委員会の令和5・6年度委員が次のとおり決まりました。

〈広報委員会〉（◎委員長、○副委員長）

氏名	所属機関／職名
◎川並 弘純	聖徳大学・聖徳大学短期大学部／理事長・学園長・学長
○二木 寛夫	山口学芸大学・山口芸術短期大学／理事長
大野 博之	国際学院埼玉短期大学／理事長・学長
原田 俊孝	岡山短期大学／副理事長・副学長
村崎 文彦	村崎学園 企画監・徳島文理大学／准教授

ご報告

●会員校の状況について

令和5年4月1日時点での本協会の会員校は、大学12校、短期大学251校です。

令和5年度事業計画

概要

一般財団法人大学・短期大学基準協会は、大学・短期大学の向上・充実に資するため、認証評価機関として大学・短期大学の教育研究活動等の継続的な質の保証を図り、加えて大学・短期大学の主体的な改革・改善を支援することを目的として認証評価事業を実施する。また、第4期評価期間（令和7年度～13年度）から適用する評価基準、要綱、実施規程等の検討を行う。

従来から継続している短期大学間の相互評価を促進・支援するとともに、短期大学の教育及び自己評価に関する調査研究として、短期大学生調査及び短期大学卒業生調査の実効性を高めるための研究を行う。加えて広く社会から理解と支援を得るため、これら事業活動に関する資料の刊行及び情報を公開するとともに、国際間の連携協力を行う。

また、認証評価機関として自らの自己点検・評価を行うための検討を始める。

このために、令和5年度の事業計画を次のとおり策定し推進する。

◇事業内容

1. 認証評価機関としての認証評価の実施等
 - (1) 大学及び短期大学の認証評価事業の実施
 - (2) 令和5年度大学認証評価の評価員研修会の実施
 - (3) 令和6年度大学認証評価のALO対象説明会の実施
 - (4) 令和5年度短期大学認証評価の評価員研修会の実施
 - (5) 令和6年度短期大学認証評価のALO対象説明会の実施
 - (6) 第4期評価期間から適用する評価基準、要綱、実施規程等の検討
 - (7) その他の認証評価に係る事業
2. 短期大学が行う自己点検・評価、相互評価活動の促進及び支援

短期大学間の相互評価のための情報提供などの支援

3. 短期大学に関わる高等教育の調査研究

短期大学生調査及び短期大学卒業生調査の実効性を高めるための研究
4. 大学・短期大学に関する資料等の刊行及び会報の発刊
 - (1) ニュースレターの発刊（ウェブサイトへの掲載）
 - (2) 大学認証評価結果報告書（CD-R）の刊行
 - (3) 短期大学認証評価結果報告書（CD-R）の刊行
 - (4) 短期大学生調査結果報告書のウェブサイトへの掲載
 - (5) 短期大学卒業生調査結果報告書のウェブサイトへの掲載
 - (6) 短期大学間相互評価報告書のウェブサイトへの掲載
5. その他目的を達成するために必要な事業
 - (1) 本協会の自己点検・評価のための検討
 - (2) 日本私立短期大学協会との連携・協力
 - (3) 短期大学生調査の実施
 - (4) 短期大学卒業生調査の実施
 - (5) 短期大学生調査及び短期大学卒業生調査の調査結果データの活用方法等に関するワークショップの実施
 - (6) 国際間（WSCUC、ACCJC等）の情報の交換及び協力
 - (7) ウェブサイト（英語ページを含む）の整備充実
 - (8) 認証評価機関連絡協議会への参画
 - (9) 大学ポर्टレート運営会議への参画
 - (10) 機関別認証評価制度に関する連絡会への参画
 - (11) 高等教育質保証学会への参画など

令和5年度収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
基本財産運用収入	[2,000]	[2,000]	[0]	
基本財産利息収入	2,000	2,000	0	
特定資産運用収入	[4,000]	[4,000]	[0]	
特定資産利息収入	4,000	4,000	0	
会費収入	[62,765,400]	[66,324,000]	[△ 3,558,600]	
短期大学会費収入	61,085,400	65,244,000	△ 4,158,600	
大学会費収入	1,680,000	1,080,000	600,000	
事業収入	[81,400,000]	[78,530,000]	[2,870,000]	
短期大学認証評価事業収入	62,920,000	72,930,000	△ 10,010,000	
大学認証評価事業収入	18,480,000	5,600,000	12,880,000	
雑収入	[3,524,000]	[3,709,000]	[△ 185,000]	
受取利息収入	2,000	10,000	△ 8,000	
雑収入	3,522,000	3,699,000	△ 177,000	
事業活動収入計	147,695,400	148,569,000	△ 873,600	
2 事業活動支出				
事業費支出	[128,814,000]	[103,011,000]	[25,803,000]	
人件費支出	(73,958,000)	(52,608,000)	(21,350,000)	
短大認証評価費支出	(23,890,000)	(26,624,000)	(△ 2,734,000)	
大学認証評価費支出	(4,461,000)	(1,861,000)	(2,600,000)	
自己点検・相互評価費支出	(31,000)	(38,000)	(△ 7,000)	
調査研究費支出	(205,000)	(299,000)	(△ 94,000)	
調査事業費支出	(2,225,000)	(2,281,000)	(△ 56,000)	
広報啓発活動費支出	(913,000)	(990,000)	(△ 77,000)	
事業諸経費支出	(23,131,000)	(18,310,000)	(4,821,000)	
管理費支出	[13,051,000]	[26,777,000]	[△ 13,726,000]	
人件費支出	(8,781,000)	(19,520,000)	(△ 10,739,000)	
理事会・評議員会費支出	(782,000)	(1,122,000)	(△ 340,000)	
事務費支出	(3,488,000)	(6,135,000)	(△ 2,647,000)	
事業活動支出計	141,865,000	129,788,000	12,077,000	
事業活動収支差額	5,830,400	18,781,000	△ 12,950,600	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定資産取崩収入	[2,520,000]	[434,000]	[2,086,000]	
退職給付引当資産取崩収入	2,000	2,000	0	
減価償却引当資産取崩収入	918,000	432,000	486,000	
評価事業引当資産取崩収入	1,600,000	0	1,600,000	
投資活動収入計	2,520,000	434,000	2,086,000	
2 投資活動支出				
特定資産取得支出	[4,160,000]	[15,606,000]	[△ 11,446,000]	
退職給付引当資産取得支出	2,700,000	2,506,000	194,000	
減価償却引当資産取得支出	1,460,000	1,900,000	△ 440,000	
評価事業引当資産取得支出	0	11,200,000	△ 11,200,000	
固定資産取得支出	[900,000]	[977,000]	[△ 77,000]	
什器備品購入支出	900,000	977,000	△ 77,000	
投資活動支出計	5,060,000	16,583,000	△ 11,523,000	
投資活動収支差額	△ 2,540,000	△ 16,149,000	13,609,000	
III 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	3,220,000	2,570,000	650,000	
当期収支差額	70,400	62,000	8,400	
前期繰越収支差額	41,651,032	41,589,032	62,000	
次期繰越収支差額	41,721,432	41,651,032	70,400	

論説 1



評価員を経験して

伊 藤

宏（和歌山信愛女子短期大学 副学長）

はじめに

私が所属する和歌山信愛女子短期大学は、和歌山県和歌山市に立地している県内でただ一つの短期大学です。保育科と生活文化学科（生活文化専攻・食物栄養専攻）を有し、県内唯一の栄養士養成施設でもあります。収容定員 340 名の小規模な短期大学ではありますが、70 年余りの歴史を持ち地域から厚い信頼を得ていると自負しております。地域に貢献できるような人材育成と教育活動を重視したこれまでの活動から、地域でやりたいことがある学生が手をあげれば、社会の現場で経験を積めるような支援体制を整えているのが本学の特色の一つです。

私が所属組織で認証評価を受けた経験は、前任校であるプール学院短期大学（令和 3 年閉学）で 1 回、現在の和歌山信愛女子短期大学で 1 回あります。いずれも、ALO や学内の自己点検・評価委員としてではなく、部門長としての資料作成と訪問調査当日の対応をただけでした。令和 3 年に副学長となり、初めて A グループの評価員に名を連ねたところ、早速同年度にチーム責任者に指名されてしまいました。何とか評価作業をやり遂げてホッとしたのも束の間、令和 4 年度もチーム責任者に指名され評価作業に取り組んだ次第です。コロナ禍という特殊な状況ではありましたが、2 年連続でチーム責任者として関わらせていただいたことは、私にとって貴重な経験となりました。ここでは 2 年間の評価作業を振り返りつつ、私なりの意見や感想を述べてみたいと思います。

評価チームの結成から事前作業へ

令和 3 年度はチーム責任者の指名を受けてから、送付された「評価員マニュアル」、「基準別評価の考え方」、「認証評価関係資料集」を文字通り必死に読み込みました。併せて、書面調査に備えて「評価校マニュアル」も精読いたしました。初めてのことでしたので、前任校で評価員を務めていた先生に連絡を取り、アドバイスをいただくということもいたしました。私にとって幸いだったことは、私以外の 3 名の評価員のうち 2 名が評価員の経験者であったことです。オンラインで最初の顔合わせをした際に、いろいろとアドバイスをいただきながら、実際の評価作業をおぼろげながらもイメージすることができました。

令和 3 年度に私が最も苦労したことは、様々な段取りをしていく作業でした。元来、締切りが近づかないとエンジンがかからない性分である私は、評価員の打合せのためのスケジュール調整、役割分担や事前作業を進める上での様々な指示が、いつもギリギリとなっていました。それでも、他の評価員の方々、そして評価校の ALO に迅速にご対応いただいたお陰で、何とか事前作業を大きなトラブルもなく進めることができました。特に、限られた時間で多くのことを検討しなければならない評価員の打合せは、事前にメールのやり取りなどをした上で当日は効率よく話し合いを進めることを心がけましたが、このことは所属組織における諸会議の運営にもフィードバックできています。

令和4年度は、私以外の3名の評価員がいずれも認証評価作業が初めてということで、チーム責任者としての役割がいっそう重くなりました。ただし、前年度の反省を踏まえて早め早めに様々な段取りを進めていくことができ、評価員に対する指示等も的確に行うことができたと思います。両年度とも、基準Ⅰ～Ⅳの区分ごとに担当を割り振り、作業を進める方法を取りましたが、担当箇所以外にも必ず目を通して気づいたことがあればささいな点であっても指摘していただくことを心がけました。令和3年度はスケジュールにしたがって必要書類の準備等を進めることで精一杯でしたが、令和4年度は当初から基準別評価票の作成を念頭に置いた段取りをしていくことができました。これにより、評価員の方々が訪問調査に代わるオンライン調査後に基準別評価票を作成する際の作業負担を、多少なりとも軽減できたと思われます。

書面調査の実施

7月になると評価作業が本格化します。送付されてきた評価校の自己点検・評価報告書と提出資料を読み込む作業は多大な時間と労力を要しました。ただ、認証評価が第3期に入ったということもあり、早急に改善を要すると判断される事項は、見いだすことはありませんでした。そこで、令和3年度、4年度とも大きな問題点や書類の不備等がないことをしっかり確認した上で、三つの意見の「特に優れた試みと評価できる事項」と「向上・充実のための課題」を見出すことに注力しました。

私が担当した2つの評価校は、いずれも学科構成などが和歌山信愛女子短期大学と類似していました。そのため、書面調査の過程では評価作業というよりも、私にとっては参考になる取組みを学ぶ機会という感じになりました。私

の所属組織はここ数年、非常に厳しい状況下にあります。短期大学存続のために様々な改革を進めている最中ですが、評価校の取組みから多くの示唆を得ることができました。他短期大学の取組みなどについて、通常はウェブサイトや大学案内など公表されている内容しか知り得ることしかできませんが、評価員として様々な資料を拝見できるのは貴重な機会だと思います。特に、組織運営等についての実情を把握することは、自分の所属組織の改革に向けたポイントを整理することにつながりました。

評価校の教員組織や財務状況の留意事項については、大学・短期大学基準協会が確認した上で通知してくださったので助かりました。それぞれの評価員が一通り書面に目を通した頃を見計らって、「区分別評価総括表」と「事前確認・質問票」の作成を行いました。質問事項等を整理していく過程で全体的な評価のポイントが明確になっていった気がいたします。

訪問調査に代わるオンライン調査の実施

コロナ禍において、両年度とも訪問調査に代わるオンライン調査を行いました。実施にあたり、評価校の準備は大変だったと思いますが、両年度ともALOを中心に可能な限り対面に近いイメージのオンライン体制を整えていただきました。令和3年度は、まだまだオンライン調査には不慣れな状況で臨みましたが、令和4年度は評価員、評価校ともにオンラインの利点や欠点を熟知した上で面接調査を進められたと思います。評価校の資料提示等も、評価員に分かりやすくする工夫が凝らされていました。オンラインとはいえ、実際に評価校の教職員の皆さまと直接のやり取りをすることで、評価に必要な情報を確実に得ることができました。

訪問調査に代わるオンライン調査において最も難儀であったのは、備付資料の閲覧でした。

従来の訪問調査であれば、必要に応じて自らの手で資料を確認することができました。評価員側で確認が必要とされた備付資料は、面接調査実施前に ALO を通してデータの形で送っていただきましたが、教員調書のようにデータ送付ができない資料は、当日の打合せ時に画面を通して確認するしかありませんでした。私だけだったかも知れませんが、アナログ世代の人間としては紙媒体を直接手に取って確認をしないと、どうしても不安が残ってしまいます。

また、施設案内については写真や動画を駆使して対応していただきましたが、実際に見て回る調査のようなわけにはいきませんでした。施設のポイントは把握することができたものの、雰囲気や使い勝手等はその場に足を運ばないと確認ができません。それから、写真や動画の撮影時期が調査時期に近い夏期休業中であつた場合、施設等を利用する学生たちの様子を把握できないということもありました。訪問調査の必要性を改めて実感した次第です。

おわりに

関係者のご尽力によって、最後は無事に「基準別評価票」を作成・提出しチーム責任者としての役割を果たすことができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。大変な役割ではありましたが、2 度の評価員の仕事を通じて私は多くの学びを得ることができました。私個人として、認証評価は評価校にとって改革やさらなる発展の機会になると考えております。準備を進める過程で、課題や問題点が浮き彫りになってくるでしょうし、ピア・レビューによって新しい取組みのヒントが生まれるのではないのでしょうか。単に「適格」の評価を得るためのものではなく、全てのプロセスが評価校にとって貴重な財産となるのが認証評価だと思います。

今年度、和歌山信愛女子短期大学は認証評価を受けることになっています。私も、今度は評価される側の責任者の一人として準備に携わっております。学内に評価員の経験を持つ者が私しかおりませんので、ALO と共に中心的役割を果たしていくことになります。「適格」を得ることが大事な目的であるのはいうまでもありませんが、自分の経験をそのためだけではなく、評価員の皆さんにスムーズに作業をしていただくための準備や、本学が抱える課題や問題点を的確に指摘していただけるような対応に生かしてまいります。短期大学にとって厳しい状況が続きますが、認証評価を通してお互いが高め合うことで乗り切っていきたいと切に願っております。



(和歌山信愛女子短期大学 校舎)



(和歌山信愛女子短期大学 校舎 ドローン撮影)



論説 2

評価員を経験して

加 藤 真 弓 (愛知医療学院短期大学
リハビリテーション学科長)

はじめに

令和4年度、初めて評価員を経験させていただきました。愛知医療学院短期大学からの登録者は2名であったこと、評価員候補者としての登録は初めてであったことから、すぐに選出される可能性は高くないのでは…と何の根拠もなく思っていたところ、前年度の秋に評価員の委嘱通知が届きました。自身が評価員側の立場に立ってもよいものか、初めてのことであり的確に任務を遂行できるか、また学務と並行して取り組めるか等の不安がありましたが、任務を完了しての思いは、「就任して良かった」というものです。

評価員研修会

開催1か月前、評価員研修会に関わる通知と関係書類が送付され、事前説明動画（評価作業の流れ、書面調査・訪問調査に代わるオンライン調査等の留意事項について等）の視聴を含めマニュアル等に目を通し、研修会に参加しました。本校では自己点検・評価及び認証評価に一委員として関わっておりましたが、自身の立場の変化と評価員への就任の機会があったことで、全体を包括的に捉えることに加え一つひとつの基準内容や事柄の定義等をより深く理解することができました。また、評価を受ける立場ですと文字では認識できたとしても、評価基準に基づく評価とともに「ピア・レビュー」の精神については評価員になって切に感じました。

書面調査及びオンライン調査

認証評価の基本方針である、「①短期大学評価基準に基づく評価と、②対話を中心としたピア・レビューを通して、それぞれの短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価を合わせて実施する」ことを念頭に、書面調査とオンライン調査に臨みました。書面調査では評価員マニュアルを含め関係資料を何度も確認しながら、評価校の自己点検・評価報告書、提出資料等を読み進め、「確認事項・質問事項記入用紙」、「区分別評価記入用紙」を整えていきました。これには多くの時間を要しました。各評価員は記入用紙を評価チーム責任者に提出し、その後集約等いただいた用紙が各評価員に提示されました。集約された用紙を拝見し、各評価員の的確な記述から様々な視点に触れることができ大変勉強になりましたし、自身の考えの浅さ、知見が限られていることに気づかされました。この書面調査期間は、評価校の自己点検・評価報告書を確認しながら本校についてひとり自己点検をしていたようにも思います。

このようにメールや書面でのやりとり、オンラインでの評価員会議を経てオンライン調査本番を迎えました。1日目は、評価校と評価チームの接続確認や進行確認等の打ち合わせから始まり、備付資料等の確認及び検討、開会、面接調査へと進みました。進行がとても円滑であったため、相談のうえ2日目に予定していた教育研究施設の確認を繰り上げて行いました。写

真で説明いただきましたが、やはりコロナ禍でなければ現地にて直接拝見し雰囲気を体感することができるとなお良かったと思います。2日目には学生インタビュー、全体を通した質問、閉会という流れでした。学生インタビューでは、質問への回答から教職員が丁寧に学生支援・教育活動を行っていることがどの学生さんからも伝わってきました。閉会後は、評価員会議にて、最終的な評価の内容の検討を行い、その後は再びメールにて「内部質保証ルーブリック」、「基準別評価票」の最終案を作成し任務を終えました。

おわりに

評価員としての仕事は、正直に申しますと、日常の学務＋ α であるため負担にはなります。しかし、大変有意義で得るものが大きいと感じました。多様化する社会、学生に対して、「本短期大学で何を学んで、何を身に付けて、何ができるようになるか」を表明し、しっかりとPDCAサイクルを稼働させ自己点検・評価の向上・充実を図ることの重要性を理解できました。昨今の少子化、働き方改革という観点から、限られた資源（人材と環境等）でどのような工夫・

効率化を図ることができるかも併せて検討していかなければならないと思いました。

今回は、評価校の教職員の方々からは内部質保証に対する不断の努力を感じ、様々な側面において優れた取組みを数多く学ばせていただきました。そして、評価チーム責任者の先生は明確なロードマップのご提示、チームの雰囲気作り、全過程を通して的確にけん引してくださり、また評価チームの先生方からいくつもの新しい知見を与えていただきました。最後になりますが、評価校の教職員の方々、評価チームの先生方に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



(愛知医療学院短期大学 校舎)



論説 3

2 回の評価員を経験して

福岡 昭雄（仁愛女子短期大学 事務局 次長）

はじめに

私は令和3年と令和4年に連続で評価員として短期大学の認証評価に関わらせていただきました。

令和3年に初めて大学・短期大学基準協会（以下、基準協会）から評価員のお話をいただいた時は、本当に私ができるのだろうかと不安でした。

また私事ですが、令和2年10月に仁愛女子短期大学に異動になる前は同じ法人内の仁愛大学で勤務しており、短期大学の担当業務を把握・遂行することで手一杯の状況だったこともあったと思います。しかし今まで経験した事のない役割に対して自分の成長につながると前向きにとらえて、お引き受けしました。

評価員としての心構え

令和3年5月下旬に基準協会から評価校及び評価チームの決定通知があり、6月上旬には評価チームのリーダーからご挨拶のメールが届き、認証評価の実施日（都合が悪い日）と評価の分担について、問い合わせがありました。評価の分担についてリーダーからは、私が初めて評価員になることを察していただき、財務関連がある基準Ⅲを担当することになりました。

6月下旬に評価校 ALO より自己点検・評価報告書及び関係書類が送付されてきました。報告書のボリュームと中身に驚かされると同時に、初めて他の短期大学の自己点検・評価報告書を確認し評価することの責任の重さを感じま

した。7月上旬にはオンラインによる評価員研修会に参加し、認証評価の基本から評価員がやるべきことの説明を聞きました。初めて聞く内容も多く、正直理解できたかどうか不安でしたが、説明の中で特に「ピア・レビューの精神」という言葉が強く心に残りました。「評価チームと評価校が対決するのではなく、ともに評価校の向上・充実を目指すという雰囲気」や「対話を重視すること」が大事だということも分かりました。

またそんな時、基準協会のウェブサイトにあった基準協会発行の会報「NEWS LETTER」の中に、評価員を経験された論説が掲載されており、それを読んで実際の認証評価とはどんなものか、新型コロナウイルス感染症の影響で今までとは違うやり方で取り組んでおられる事などが、事前に情報として知ることができました。そして評価員の皆さんがコロナ禍で苦勞しながら協力されていることを知り、あらためて私も頑張ろうと思いました。

書面調査

7月中旬に訪問調査に代わるオンライン調査の日程が確定した後から、評価チームでオンラインによるミーティングを開始しました。最初のミーティングでは、初対面でもあり緊張していましたが、何回もミーティングを重ねることで、各自が「自己点検・評価報告書」を読んで見つけた課題や疑問点に対して、「事前確認・質問票」に記載するかどうかや提出資料追加の

要否を議論しながら完成させ、評価校へ提出しました。

評価チームでオンライン調査前のミーティングを、地理的な制約もなく実施できたのはとても良い事だと感じました。特に初めて評価員になった私にとってこのオンラインによるミーティングは、他の皆さんに時間的な制約でご迷惑をあまりかけずにいろいろ教えていただく事ができたので、本当に良かったと思いました。

オンライン調査の難しさ

9月下旬にコロナ禍の影響もあり訪問調査に代わるオンライン調査を行いました。

実際に2日間にわたり、評価チームと評価校の打ち合わせに始まり、面接調査、学生インタビュー、教育研究施設の確認を実施しました。調査が終了した後は、評価チームで協議しながら「基準別評価票」を完成させていきました。

実際に調査を実施して感じたことは、やはりオンライン調査で評価することの難しさです。オンラインで質問と確認を行いますが、備付資料については一覧表を見て確認していくことになります。やはり現物資料を自由に閲覧できる状況があればもっと良い調査になると思いますし、学生インタビューも教育研究施設の確認も実際に訪問させていただくことで分かることがあると感じました。

おわりに

2年連続で評価員を務めさせていただいた率直な感想としまして、評価員は、やる前の準備がとても大変ですが、やり終えた時は経験して本当に良かったという気持ちと同時に勇気もいただきました。それは18歳人口の減少により、すべての短期大学にとって逆風が吹き荒れ、定員充足が難しく厳しい経営環境の中であっても、学生の教育の質向上のためにあらゆる努力を惜しまず、同時に経費削減も達成させるために前向きに取り組んでいる姿を、評価員という立場で確認できたからだと思います。認証評価を受ける短期大学と自分の所属する短期大学を客観的に比較することで、もっと努力が必要だとリアルに感じることができました。このような貴重な機会をいただき、関係の皆様へ感謝申し上げます。



(仁愛女子短期大学 校舎)

論説 4



評価員を経験して

須 栗 大 (中京学院大学 経営学部 教授)

はじめに

令和4年度から大学・短期大学基準協会（以下、基準協会）の大学認証評価が始まり、最初の大学認証評価の評価員を拝命しました。他の認証評価機関による認証評価を受けることは2回ありましたが、認証評価の評価員の経験はこれまでなく、基準協会の評価についても初めての経験でありました。

評価員研修会

評価員研修会はオンラインでの開催でありましたので、本当に評価に向けての準備ができるのか不安でもありましたが、基準協会の方から話していただけた「ピア・レビュー」の精神での評価という言葉にこれまで受けてきた認証評価との違い（良い意味で）を理解でき、その後の細かな評価の手続きについても大変わかりやすく説明されたので、書面調査にあたっての不安は大部分解消されました。その後もオンラインでの評価チームの打合せも実施され、評価チーム責任者の先生からの的確な指示のもと役割が明確になり、個別の質問にも責任者の先生とのメールで回答いただき、書面調査に向けての準備は問題なく進みました。

書面調査

評価校から「自己点検・評価報告書」と「提出資料」が大きな段ボールで送られてきて、書面調査が始まりました。私の主担当は基準Ⅰ－A－2「高等教育機関として地域・社会に貢献

している。」と基準Ⅲ－A「人的資源」でした。

まずは送付していただいた「自己点検・評価報告書」の全体について読み進めていくのですが、「提出資料」を確認しながらの評価はかなり時間のかかる作業でありました。主担当の記述において、特に提出資料ではない備付資料とされているものについては訪問調査の時に確認する必要があるため、確認を忘れないようリストを作成し訪問調査に備えることとしました。書面調査の期間中に追加資料の提出にも評価校が応じていただき、訪問調査前に確認しておきたいことをある程度減らすことができたのは、訪問調査におけるスムーズな評価につながったと思います。

訪問調査

訪問調査は10月中旬に2日間の日程で実施されました。ALOとの顔合わせを終えたのち、午前中は備付資料等の確認及び検討が行われ、その中で評価チーム責任者の先生を中心に初顔合わせとなるチームのメンバーの自己紹介等が行われオンラインで行われてきたこれまでの研修や打合せの会議ではわからなかった評価員の先生方のパーソナリティを知ることができたことは短い時間ではありましたが、その後の評価活動にプラスに影響したと思います。

午前中の備付資料の確認及び検討の時間は大変短く、あわただしくそれぞれの担当箇所の備付資料の確認、追加で提出していただきたい資料の検討などが行われ、昼食の時間ののち面接

調査の1回目が行われました。

面接調査の1回目は基準Ⅰ、基準Ⅱについて、評価校の理事長先生をはじめ、役職を持った教職員は会場に、各学部の委員長などの先生方はオンライン会議システムを利用しての参加でした。会場とリモートでのやり取りなどにも問題はなくスムーズに質疑応答が行われ、事前のリハーサルもしっかりされている印象を持ちました。

その後の学内視察についても学内の様々な箇所を授業の様子も含めて見学させていただき、担当の教員の方からお話を伺うことができました。建学の精神と教育の関連が施設の面でも確認できたことは大変勉強になりました。1日目の最後は評価員会議を実施し1日目の課題整理や翌日の調査の確認などを行い終了となりました。

2日目はALOとの打ち合わせの後2日目の備付資料等の確認及び検討を実施し、2日目にも基準Ⅱについて追加の質問を行ったうえで基準Ⅲ、Ⅳの調査をすることとなり、評価校には直前での変更にもかかわらず、臨機応変に対応していただきました。午前中は学生インタビューを実施し、各学部の学生から授業期間内のため遅れてくる学生も居ましたが問題なく学生から直接大学について伺うことができました。

午後には2回目の面接調査が実施され、財務に関する事など大学の運営についても理事長・学長をはじめ多くの教職員から質問に対して丁寧にご説明をいただき、2日間すべてに参加された理事長・学長のリーダーシップのもと、大学全体で自己点検・評価に向けての取組みをされていることを強く感じました。

最後に評価員会議において書面調査と訪問調査を合わせた評価の全体的な方向性について確認し、今後のスケジュールなどを調整したうえで

で2日間の訪問調査が終了しました。

訪問調査ができたことは、ALOの先生を中心に評価校にとっては大変だったと思いますが、評価員としてはとてもありがたい機会をいただくことができ感謝しております。訪問調査を通じて評価チーム責任者及びチームメンバー、また評価校のALOをはじめとした担当していただいた教職員の皆様が、互いに尊重し、本当に「ピア・レビュー」の精神が生かされている認証評価であることを強く感じた訪問調査になりました。

おわりに

初めての評価員の経験を執筆させていただき、これまで経験されてきた教職員の皆様にどれほどお役に立てるかわかりませんが、基準協会における最初の4年制大学の認証評価に関わることができ、また勉強させていただく機会をいただけたことを感謝いたします。評価校の日ごろの教育研究の取組み、自己点検・評価の取組みや、また評価チームの先生方の認証評価



(中京学院大学 校舎)

に対する真摯な姿勢に触れることができたことを今後の本務校での教育研究活動、自己点検・評価活動に生かしていけるよう学内にも共有できるところは共有していきたいと考えております。

最後になりますが、特に評価校の ALO、評価チーム責任者の先生には評価前から評価後に至るまで大変お世話になりました。また貴重な経験をさせていただきました関係の皆様にも心より感謝いたします。誠にありがとうございました。



編集後記

ChatGPT など、対話型人工知能への対応が世界中で問われています。小欄を担当して5年余り、振り返ると過半はコロナ禍の書き出しでした。世界を席卷したウイルスとの共存の道筋が見え、アフターコロナの社会が動き出しましたが、間髪なく新たな課題に社会は直面しています。

コロナ禍は人類に大きな傷跡を残した一方、ICT の促進という副産物を生みました。認証評価はオンライン実施となり、小紙編集も大半は ICT 利用です。今年はオンライン、対面併用でより効果的な認証評価が予定されています。今回は、その活動を牽引される本協会の川並副理事長に巻頭言を、そして改善を積み重ねてきたオンラインでの認証評価を経験された方々からご寄稿をいただきました。

大学設置基準や私立学校法の改正、さらに対話型人工知能への対応など、各高等教育機関は課題が山積しています。認証評価の取り組みが会員校の新制度・新技術対応の支援になることを願っています。(H F)

編集・発行

一般財団法人 大学・短期大学基準協会 広報委員会
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-11
第2 星光ビル 6 階

Tel. 03-3261-3594 Fax. 03-3261-8954

E-mail : jimukyoku@jaca.or.jp

URL : <https://www.jaca.or.jp/>